

○朗読 住友美代子氏（朗読サロンさざなみ主宰）

長谷川時雨著『春帶記』

大正・昭和期に活躍した作家長谷川時雨（1879年10月1日-1941年8月22日）は、評伝「近代美人伝」などの代表作や雑誌「女人芸術」を主宰して多くの女流作家を世に送りだしたことで知られています。『春帶記』（岡倉書房、昭和12年10月刊行）は鳥居きみ子ら8人の女性の生涯を描いたもので、鳥居きみ子の青春、鳥居龍蔵との出会いから新婚生活、そして二人での蒙古行や蒙古での生活の様子が綴られています。

住友美代子氏略歴

- 1995年、NHK朗読サロンで和田青嵐氏に、後に平岡實氏に師事
- 1996年、朗読クラブ「藍玉（あい）」結成、代表者となる
- 2001年、日本朗読協会主催第一回朗読コンテスト最優秀賞受賞
朗読サロン「さざなみ」主宰
- 2005年、選抜朗読会「さざなみアカデミー」結成
- 2006年、第22回国民文化祭朗読企画優秀賞受賞

『春帶記』関連年表

1870(明治3)4月4日	現徳島市東船場町の鳥居家の二男として誕生
1876(明治9)	觀善小学校（現新町小学校の前身）に入学
1877(明治10)	小学校を退学
1886(明治19)	東京人類学会入会、坪井正五郎と交流始まる
1888(明治21)	坪井正五郎、鳥居家を訪問
1890(明治23)	東京遊学
1892(明治25)	一家で東京移住。
1893(明治26)	東京帝大人類学教室標本整理係の職につく
1895(明治28)	兄友太郎死去。初の海外調査・遼東半島調査 日清講和条約(7月)
1896(明治29)	第1回台湾調査、帰途沖縄調査。この時、野外調査で初めて写真機を使用。
1897(明治30)	徳島県木頭村の民俗調査。第2回台湾調査
1898(明治31)	東京帝大理科大学助手となる。第3回台湾調査
1899(明治32)	千島列島の調査。 『人類学写真集台湾紅頭嶼之部』（東京帝国大学理科大学）刊行
1900(明治33)	きみ子、上野音楽学校に入学。 第4回台湾調査
1901(明治34)	きみ子の父応資死去（6月）。きみ子と結婚（12月）
1902(明治35)	西南中国の調査 『紅頭嶼土俗調査報告』（東京帝国大学）、『人種誌』（嵩山房）刊行
1903(明治36)	『千島アイヌ』（吉川弘文館）刊行
1904(明治37)	沖縄諸島の調査。この時、野外調査に初めて鐵管蓄音機を導入。 初音誕生(10月1日) 日露戦争(2月)
1905(明治38)	東京帝国大学理科大学講師となる。龍雄誕生(8月28日)。
1906(明治39)	第2回満州調査 日露講和条約(9月) きみ子、蒙古カラチン王府女学堂 教師となる（3月）。 続いて龍蔵、同男子学 堂教授となる（4月）
1907(明治40)	きみ子、『蒙古行』（読売新聞社、1906年10月）刊行 夫妻蒙古から一時帰国（1月）。幸子誕生(3月23日)。 幸子を連れ再び蒙古へ（6月）
1908(明治41)	『苗族調査報告』（東京帝国大学人類学教室）刊行 蒙古から帰国（12月）

人類学者鳥居龍藏と生涯を共にしたきみ子夫人のことを調べていた折、ある雑誌に「二人が結ばれた模様は長谷川時雨著『春帶記』にくわしい」と記された。ぜひ一読してみたい

9/28

いた。ぜひ一読してみたいと探し続けていたところ、知人からの古書情報をもとにようやく入手することができた。どうやら古書市場にもあまり出回らない本のようである。

長谷川時雨は、大正・昭和初期にかけて活躍した作家である。評伝『近代美人伝』などの代表作や雑誌『女人芸術』を主宰して多くの女流作家を世に送り出したことで知られている。

『春帶記』は作者晩年の昭和十二年に刊行された作品で、「モルガンお雪」ら八人の女性の生涯を描いている。その中に「操子ときみ子」という章立てがある。操子とは河原操子のこと、蒙吉カラチン王府から女学堂の教師として招かれた教育者である。きみ子は操子の後任として明治三十九年に赴任した間柄である。

きみ子の伝記は、ピアノ教師をめざし上野音楽学校に入学した明治三十三年ごろの話から始まる。

あなたれし、よろこばし。
さめてもはかない夢の世に、
夢にもあはでおいゆかば、野
未の露とわれ消えん
だけがそれなりを繰返して
ある。かと思ふと、

立ちそふ君がまぼうじや、

さめてもはかない夢の世に、
夢にもあはでおいゆかば、野
未の露とわれ消えん
と、これまた激しい、火の
やうな情熱を帶びて、キーが
飛ぶ。「きみ子さん、どうな
すつたのそれ、自作詩?」

この書き出しは、同郷の鳥
居龍藏と出会い、恋心が芽生
えて級友に冷やかされている
光景を描いたもの。続いて、
下宿でラブレターを書きつづ
る様や遺跡発掘に同行する様
などもつづられている。

『春帶記』では、薄給の中
での新婚生活、蒙古行きの經
緯や蒙古での生活、生後間も
ない幸子を伴って過酷な蒙古
での調査旅行をした明治四十
一年ごろまでが描かれてい
る。つまり鳥居夫妻の青春
記と言つていいだろう。小説
とはいえ、夫妻の一
面を読み取ることの
できる一冊であつた。

(鯨)

鳥居夫妻の青春記

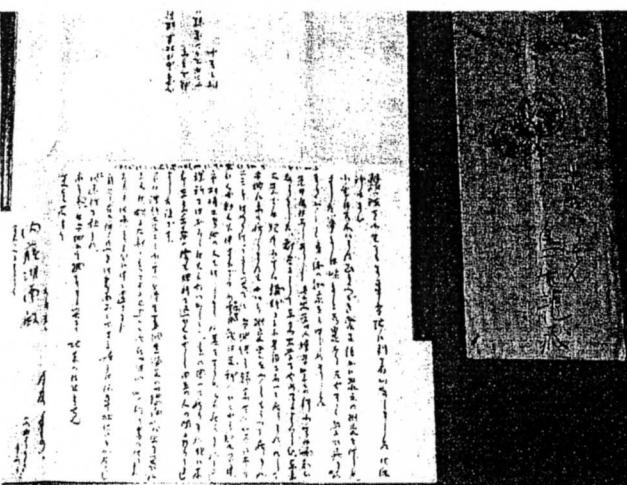


徳島新聞 2006年12月17日

内藤湖南(東洋史学者)に承諾の手紙

鳥居龍藏を京大に誘う

鳥居龍藏から内藤湖南へ送られた手紙。京大への転職を受諾する内容となっている。内藤敬子さん所蔵



京都で研究者発見

学界での評価裏付け

30代、東大講師 転職実現せず



鳥居龍藏



内藤湖南

親交を深めたことが、鳥居
一九〇五年に中国・奉天
(現・瀋陽)での民族問題
調査時に宿舎で同室となり
二人の交友については、

一九〇五年に中国・奉天
(現・瀋陽)での民族問題
調査時に宿舎で同室となり
二人の交友については、
ないとう・こなん・秋田
県生まれ。本名・虎次郎。
秋田県立師範学校卒業後、
「萬朝報」主幹などを経て、
1907年に京大の東洋史学の講師となり、09年
から27年まで教授。東方文
化学院京都研究所(現・京
大人文研)評議員を務める
など東洋史学の發展に貢献
し、「京都学派の祖」と呼

手紙は、湖南の孫・内藤
敬子さん(京都市)が所有
する百六十三通の書簡に含
まれていたもので、谷川道
雄・京大名誉教授らでつく
る「内藤湖南研究会」(事
務局・京都)の会員・名和
悦子さん(岡山市)が整理
中に確認した。

明治四十年九月五日付
で、「先日御はなしありし
貴大学『人種学』云々の件
小生は承知いたしました。

都合によりて東京大学をや
めてもよろしい」と記して
いる。鳥居がきみ子夫人と
ともに教員として赴任して
いた蒙古カラチン(現在の
中国内モンゴル)から送っ
ている名和さんによる
『人種学』とほ、湖南が中
心になつて設立を進めてい
た「人類学教室」のこと。

二人の交友については、

みえてくる点でも、非常に
興味深い」と話している。

夫さんは「鳥居は五十四歳
で東大を助教授で去るが、
もし京大へ移つていれば日
本人類史の歴史が変わ
っていたかもしれない」と話
し、「湖南がどのようにして
鳥居を誘ったのか、なぜ
京大への転職が実現しな
かったのか、県立鳥居記念博
物館に残されている膨大な
資料を整理・調査していく
か、そのいきさつを解き明
かすことができるかもしれ
ない」と言う。

前県立博物館長の天羽利
湖南の「游清第三記」に記
されているが、湖南が京大
転職を持ちかけていたこと
は、これまで知られていな
かった。

○講演 西田素康氏（鳥居博士顕彰会事務局長）
「鳥居龍藏の遺品」

鳥居博士は、中国北京の燕京大学を辞職し、1951(昭和26)年12月に中国から家族とともに帰国しました。帰国後、博士を待ち受けていたのは無惨にも戦災にあった我が家でした。幸いにも博士の財産ともいえる書庫は焼失を免れました。その書庫の中に残されていた蔵書や遺品は、北京から持ち帰った品々といっしょに鳥居記念博物館に収蔵されています。

現在これら遺品の整理がすすめられていますが、遺品から何が読み取れるか、また遺品の意義などを語っていただきます。

西田素康氏略歴

『鳴門市史』企画、編纂、執筆等に従事。

鳥居龍次郎氏の死去（1998年12月17日）をうけて、1999年から鳥居博士顕彰会事務局長に就任、現在に至る。鳴門郷土史研究会会长

著書に『鳴門の民話と伝説』（2003年刊行）、『鳴門再発見』（分担執筆、2005年刊行）等

鳥居記念博物館収蔵資料参考文献

- ・西田素康「新出の鳥居龍藏関係資料一発見の経緯と知見一」（史窓34号、徳島地方史研究会、2004年3月）
- ・原多賀子「徳島県立鳥居記念博物館の収蔵資料について」（史窓34号、徳島地方史研究会、2004年3月）



帰国後書庫を開けた鳥居博士と家族 每日新聞社提供

東京港区麻布霞町自宅にて。左から孫玲子、龍蔵、二男龍次郎、きみ子夫人、前は長女幸子
『図説鳥居龍藏伝』（鳥居博士顕彰会、1965年）より



1. 山高帽

博士愛用の山高帽。

高サ 15 cm、縁長 19.5 cm × 16.8 cm

帽子の幅 19.3 cm × 17.5 cm

ロンドン製(三越販売)

この帽子には樋口清之先生(国学院大学教授)の
逸話がある。



2. 鳥居博士描く色紙（額入り）

高サ 20 cm、幅 17 cm、年代不明

台湾紅頭嶼のヤミ族のスケッチ(舟は
タタラ)か?

落款の  が面白い。



3. 鳥居龍次郎(次男)のスケッチ

遠望の山並みは
遼の西陵、中陵、
東陵か?

野外の風俗を見
事に画いている。
右下の眼鏡をかけ
ノートを見て
いる人は鳥居博
士か。

このスケッチは
大変気に入った
のか年賀状に刷
っている。



4. 鳥居博士旧蔵の文鎮

寒山拾得の文鎮。

作者の香取秀眞氏とは東大講師時代に
知友の関係にあり、同氏より贈られたもの。



5. きみ子夫人の木箱

きみ子夫人の喜寿の祝に贈られた
箱の板に書きとめられた歌。

「紅の花のえまいに子等はつとひ
喜寿をことほく今日のよろこび

きみ子」

(昭和 32 年)

縦 24 cm、横 14 cm、高サ 6 cm の杉板製。



6. ペン皿

鳥居博士愛用のペン皿。鹿の絵
底辺 28 cm、高サ 12 cm

7. 真鍮製十字架と燭台



鳥居きみ子夫人臨終の枕頭におかれて

あったもの

高さ 26 cm、幅 9 cm

クリスチャン名はオグスチナといった



8. ラマ（喇嘛）像

内蒙古喀喇沁王が来朝の折に虎皮と共に呈

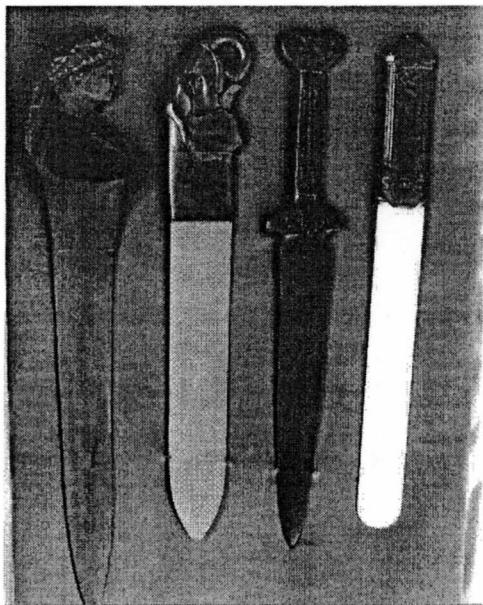
されたラマ小仏像

高さ 12 cm、横幅 7 cm



9. 獅子文鎮

香取秀眞氏贈。香取氏は古銅器研究と治金の
大家で、歌人としても有名である。

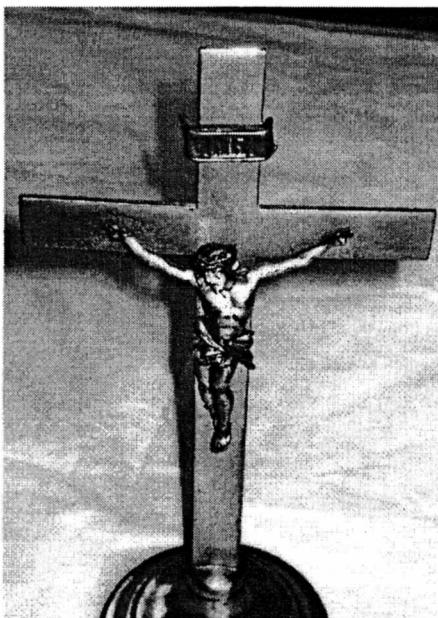


10. アイヌのナイフ

右から 2 本目の銅製短剣は香取秀眞氏の作品。

左から長さ 32 cm、28 cm、29 cm、27 cm

11. 7 の十字架の大写し



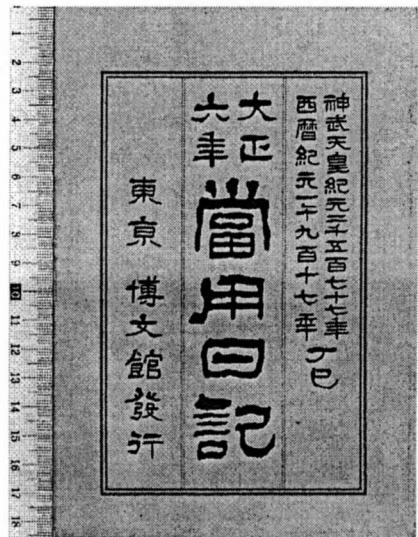
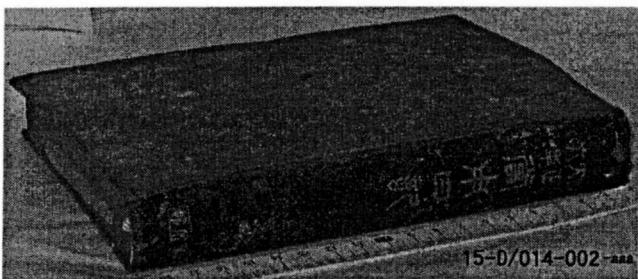
12. 鳥居龍雄(長男)の遺品

私共は長男の龍雄の将来に多大の期待をもち良き後継者として總の望みをかけていたが彼は不幸にして他界して私共を悲しませた。

(昭和 14 年「科学知識」インタビューから)



鳥居龍蔵の遺品 日記



当用日記について

国産第一号の當用日記は、明治 28 年(1895)内閣印刷局の委託で博物館から「懷中日記」が発売され、その翌年に B6 版の『當用日記』が販売された。(H18.2 古書通信)

鳥居龍蔵日記は明治 25 年(1892)懷中日記、同 29 年(型は不明であるが)日記、ついで同 32 年 33 年と現存しているので、日記の愛用者としては、かなり先人である。

「或る老学徒の手記」によれば明治 38 年 8 月長男龍雄が生まれて以来つけだした、とあるが、死の前年の昭和 27 年(81 才)までついている。(戦中は学術研究ノート、戦後は自由日記)

日記よりみた博士の実像

1. ○○氏と書き、君づけ、又は呼びすてしない
2. 時間を書いてあること、○時○分又は○○頃
3. 食事を必ず、昼食をとる、誰と食事する。と書いてある。
4. 当用日記 上欄の発信・受信 毎日のように
5. ハガキが多い、海外からは絵ハガキ(たまに電報を使用)
6. 人の名前は空欄が多い(後から確認して記入するため)
7. 書体 毛筆、ペン書き、鉛筆書き(赤字あり)
8. スクラップ(自分又は家族に関する)を挿入してある

参考 7 ページは大正 12 年 9 月 1 日 2 日(関東大震災)の日記

五

九 一 日 週

廿二 日 一 七 月

摘要	題目
	三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。

（西元一九四九年八月一日）

五	九 一 日 週
六	三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。
七	三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。
八	三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。
九	三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。

三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。	三十日，蘇聯外長葛羅米柯在蘇聯駐華大使館舉行酒會，余光生、 葛羅米柯出席。席間，葛羅米柯向余光生表示希望在新的一年里， 同中國人民一道，繼續為世界和平和中國人民的和平建設事業做出貢 獻。余光生回應說，中國人民希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建 設事業，並希望蘇聯繼續支持中國人民的和平建設事業。
--	--

龍藏日記に挿入された龍次郎の画

